

【原著論文】

# 幼稚園教育実習の学びの省察に焦点をあてた 短期大学幼稚園教育実習事後指導のプログラムの開発

三橋 功一 木村 美佐子 三島 裕一 三上 香澄

## Development of a Program for After-Practice-Teaching Guidance at Junior College, Focusing on Learning Reflection of a Practice Teaching at a Kindergarten

MITSUHASHI Koichi KIMURA Misako MISHIMA Yuichi MIKAMI Kasumi

幼稚園教育実習における学びを振り返り・省察し「幼稚園教育実習における経験に基づく幼稚園教育・保育活動、それを支えるわざ等解釈とともに保育者としての適性・自己評価、保育者としての課題等」を明らかにする「①オリエンテーション、②教育実習報告会、③教育実習の自己評価・成果と課題、④研究保育を振り返って教材再研究・指導案の再作成、⑤研究保育の改善点の検討、⑥教育実習評価の理解、⑦まとめ・自己課題の明確化」から構成される「教育実習事後指導（1単位）」プログラムについて検討した。

キーワード：幼稚園教育実習事後指導、省察・リフレクション、教材再研究

### 1. はじめに

「子どもたちが去った後、あるいは眠ったあと、保育者は、さし迫った現実の要求からひととき解放され、無心になって掃除するときに与えられる。三輪車がひっくり返り、思わぬところに積み木がちらばり、そのところどころに、保育の最中には気づかなかった子どもの心のあとを見出す。それと共に、子どもと応答していたときの体感や物質のイメージがよみがえる。いずれも、無心に掃除するときに、向こうからやってくる。もう一度心をとめて見よというかのごとくである」と、津守（1983）は「保育の実践と、実践の後に考える作業と、その両者を合わせたところに保育がある」との根拠として紹介している。これは「保育の実践と実践の後に考える（実践後の想起、振り返り）」が保育者の専門性発達要因としての提案・指摘である。

教育実習・保育実習は大学の保育者養成・教育者養成カリキュラムであるが、「外部の教育機関（保育所・幼稚園等）」へ委託し、保育者・教諭のもつ「教育実践の知」を学ぶ特徴がある。大学における学びは、命題的知識（外部表象化・選定された知識・能力・技能）獲得による認知構造の変

化に焦点があてられるが、保育実習・教育実習は「保育者との保育活動の協同的実践による、保育者の保育活動の実践知（暗黙知）の獲得」と捉えられる。つまり教育実習の学びは、学生の観察参加から、指導教諭の指導の下、共同（手伝い）で継続的教育活動を行い、実習終了時には「研究保育」実施と、共同体の活動への参加形態の変化、それに連動し学習主体の行為のあり方、学習主体による実践共同体の社会文化的活動（観察、環境構成、働きかけ、評価等）の理解、さらに同期的に学習主体の自己認識（視点変化、実践理解、共同体における位置 等）を形成・変容させる学びである。

西之園（1999）によれば、「教育における実践知の構造」は、図1のように表せる。「暗黙知（特定の状況に関する個人的な知識であり、形式化したり他人に伝えたりするのが難しい）、形式知（明示的な知であり、形式的・論理的言語により伝達可能な知）」は、Michael Polanyi（マイケル・ポランニー1980）による人間の認識の分類である。野中・竹中（1983）は、企業経営研究において、ポランニーの暗黙知・形式知を援用し「知識創造は暗黙知・形式知の往還・変換過程」として捉

え「SECIモデル(図2.)」を創出した。このモデルに従うならば、短大授業における学びは「形式知→形式知(連結化Combination)」であり、教育実習の学びは「暗黙知→暗黙知(共同化Socialization)」であり、さらに教育実習事後指導は「暗黙知→形式知(表出化Externalization)」の学びと考えられる。この教育実習において指導教諭との保育活動・経験の共有と指導教諭の保育活動を観察・模倣しつつ、自らの保育活動を構成・実践(習作)する実践の学び(「暗黙知→暗黙知」図3)は、指導教諭(幼稚園教諭)の保育を模倣しつつ、保育に関する欲望(理念)の模倣(学ぶ)過程である。

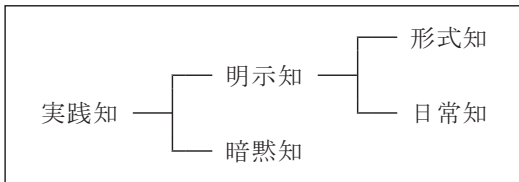


図1 教育における実践知の構造 (西之園1999)



図2 SECIモデル (野中・竹中 1996)

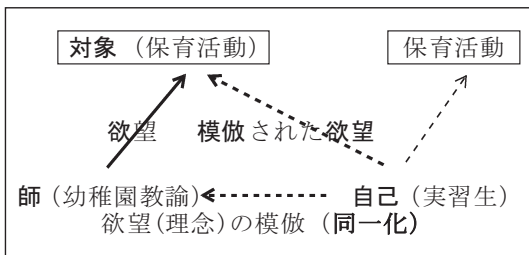


図3 教育実習における師弟関係・学びモデル (「欲望模倣論Rene Girard」を援用)

このとき、「師(幼稚園教諭)」は、自らの理想の保育に向かい実践に行い、「学び手(実習生)」は「師(幼稚園教諭)」に共感(同一化)し、「師」の理想を模倣することに専心する。実習生は、指導教諭の理想を模倣し、観察・共同(見よう見まね)で自らも幼児に保育活動を行う。この理想の模倣過程のなかで、保育実践知(わざ)とともに保育への深い見識が学び伝えられる(図3)。

教育実習事後指導の学びは、教育実習における「保育者との保育活動の協同的实践により、保育者の保育活動の実践知(暗黙知)の獲得」の学びを、省察し暗黙知を言葉により形式知を生み出し(「表出化Externalization」)記録するとともに他者へ伝達する過程と考えられる。

これまで、教師の専門職像について「技術的合理性」に基づく「技術的熟達者(technical expert)」と併せてショーン(D. A. Schon 2007)により提起された「行為の中の省察」に基づく「省察的实践家(reflective practitioner)」の考え方が佐藤など(ショーン 2001)により紹介され、教師像・教育観の再構築の契機となった。わが国では、このショーンの「反省的实践家」の概念は、医療、法律、経営、看護、福祉など多方面において注目されている。(例えば、神原(2018)「新人看護師のリフレクションを支援する指導に関する研究」など)

姫野・渡部(2006)は、省察を視点とした教育実習事後指導プログラムは実習経験の省察が鏡的役割を果たし、同プログラムが有効であるとの知見を得ている。また、上山・杉村(2015)は、「保育者による実践力の認知と保育経験及び省察との関連について、保育経験年数と省察の関連よりも、経験年数と実践力の認知との関連が強く、それ以上に省察と実践力の認知の関連が強いことが示された。経験年数の少ない若手保育者であっても省察を行うことで実践力の認知が高まり、省察においては、子どもの状態に気づき分析的に振り返ることが実践力の認知に繋がると考えられた」との知見を得ている。

ショーン(1983)は、省察・リフレクションについて

- ・ knowing-in action (行為に内在する認識)
  - ・ reflection-in action (行為の中の省察)
  - ・ reflection-on action (行為に関する省察)
- の3つの概念・省察の関係を整理している。

前述の幼稚園教育実習における毎日の学びと省察リフレクション

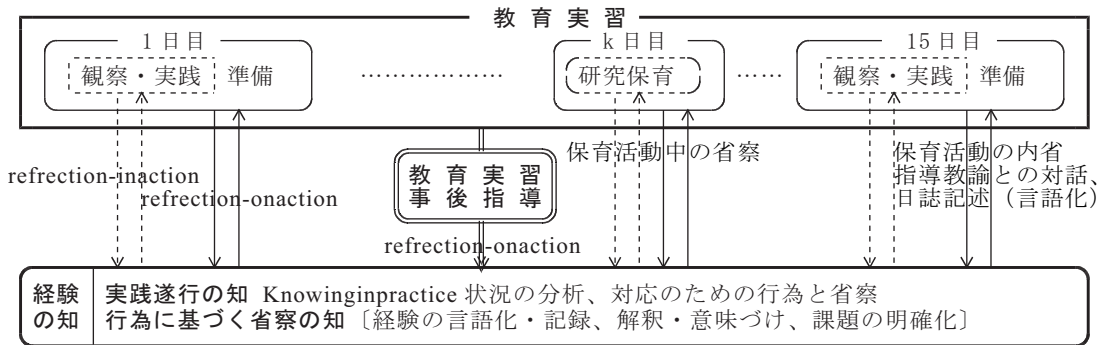
- ・指導教諭の保育活動の観察行為＋自らの保育活動とreflection-in action（行為の中の省察）
- ・観察・保育活動後の省察＋指導教諭との対話＋日誌記述に関する省察reflection-on action（行為に関する省察）

を整理すると「図4．幼稚園教育実習・幼稚園教育実習事後指導における学びと省察リフレクシ

ョン」に示すようになる。

さらに、幼稚園教育実習・幼稚園教育実習事後指導における省察リフレクションの特徴を整理すると表1．に示すようになる。

このように、教育実習事後指導における省察リフレクションは、教育実習における保育活動から離れて省察を行うことに特徴があり、省察により「経験の言語化・記録、解釈・意味づけ、教材再研究、課題の明確化」がなされる特徴がある。



〔凡例：-----> : refrection-inaction、->-> : refrection-onaction〕

図4．幼稚園教育実習・幼稚園教育実習事後指導における学びと省察リフレクション

表1．幼稚園教育実習・幼稚園教育実習事後指導における省察リフレクションの特徴

	幼稚園教育実習	幼稚園教育実習事後指導
リフレクション	保育活動中の省察	保育活動後の省察 指導教諭との対話 日誌記述
	教育実習、保育活動等についての省察 代替案作成・検討（未来の課題の「行為のための省察」→Nextstepの検討）	
	行為の中の省察 reflection-inaction	行為についての省察 reflection-onaction
状況の種類	予想外の状況 (surpriseへの対応)	予想内・予想外の状況
行為への意識	意識的	意識的
行為と省察の関係	行為と省察は一体	行為と省察は分離された関係 (状況から離れて行為を省察) 再(修正)行為可能
行為と実践者	行為的現在の中 (状況の渦中)	行為的現在の外 (行為・状況に影響を与えられない)
省察の意義・価値	状況の分析、対応のための行為と省察	経験の言語化・記録、解釈・意味づけ、教材再研究 課題の明確化

上山・杉村 (2015) の「経験の少ない若手保育者であっても省察により実践力の認知が高まる」とこと併せ、将来学び続ける保育者・省察的実践家として自らの実践 (幼稚園教育実習) を対象として省察リフレクションする学びを設けることを考えた。

そこで本研究は、短期大学幼稚園教育実習における学びを振り返り、幼稚園教育及び幼稚園教諭の教育活動を支えるわざを対象化する「教育実習事後指導 (1 単位)」プログラムについて検討する。

## 2. A短期大学の保育実習・教育実習プログラム

### (1) 保育実習・教育実習プログラム

A短期大学保育学科は、2年間の保育士・幼稚園教諭養成カリキュラムを構成している。1年次教育原理、保育原理、教職概論、教育心理学等の教職科目等履修終了後「保育実習Ⅰ (保育所)」をはじめとして、「短大での学び」と「保育実習 (保育所・施設)、幼稚園教育実習」の実習・実践を並行にて学ぶ特徴がある (表2)。

「幼稚園教育実習」は、2年次8・9月3週間、「保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習Ⅲ (施設)」との組み合わせで設定されており、8・9月いずれかで履修する。

表2 保育実習・教育実習プログラム

時期	期間	実習名	必修・選択
1年 2月	2週間	保育実習Ⅰ (保育所)	必修
2年 6月	2週間	保育実習Ⅰ (施設)	必修
2年 6・8・9月	2週間	保育実習Ⅱ (保育所)	選択
2年 8・9月	2週間	保育実習Ⅲ (施設)	選択
-----			
2年 8・9月	3週間	幼稚園教育実習	選択

### (2) 幼稚園教育実習事後指導プログラム

2年次後期に開設されその内容は「表3. 幼稚園教育実習事後指導プログラム」に示す通りである。授業は、「表4. 幼稚園教育実習事後指導 シラバス」に示す通り「45分×15回授業 (1 単位)」

を、「90分7回+45分1回 (1 単位)」授業として計画した。

表3. 幼稚園教育実習事後指導プログラム

1. オリエンテーション (教職履修カルテ記入等)
2. 教育実習報告会
3. 教育実習の成果と課題、教育実習の自己評価
4. 研究保育を振り返って指導案の再作成
5. 研究保育の改善点の検討
6. 教育実習評価の理解
7. まとめ 自己課題の明確化

表4. 幼稚園教育実習事後指導 シラバス

#### ◇授業のテーマ及び到達目標

教育実習を振り返り、学んだ成果と課題を確認できる

- ・実習報告会を通して学びを共有し、幼稚園教諭としての課題を理解する

- ・自らの教育実践を省察し、指導案を修正することができる

#### ◇授業の概要

3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習で体験し学んだことを総括し、今後の学習課題を明確にすることをねらいとする。

#### ◇授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教職履修 (教育実習) カルテの記入
- 第3回 実習報告会1 (発表:Aグループ)
- 第4回 実習報告会2 (発表:Aグループ)
- 第5回 実習報告会3 (発表:Bグループ)
- 第6回 実習報告会4 (発表:Bグループ)
- 第7回 教育実習の成果と課題
- 第8回 教育実習の自己評価
- 第9回 研究保育を振り返って
- 第10回 指導案の再作成
- 第11回 グループワーク1 (研究保育の改善点)
- 第12回 グループワーク2 (研究保育の改善点)
- 第13回 教育実習評価の理解・個別指導
- 第14回 教育実習評価の理解・個別指導
- 第15回 まとめ 自己課題の明確化

※「45分×15回 (1 単位)」授業を、「90分7回+45分1回 (1 単位)」授業として計画

### 3. 幼稚園教育実習事後指導の内容

幼稚園教育実習事後指導プログラム（表3）の具体的内容について、下記のように検討した。

#### (1) オリエンテーション

教育実習事後指導は、実習中の学びや自己の成長の再確認、さらに自己の課題を明確にし、今後の学習を深めることを目的とする。単に実習の思い出を語りあったり、反省点ばかりを連ねたりするのではなく、それぞれの体験を基に省察し、発展的な学びにすることが求められる。事後指導における目的意識を高めるためには、初回授業において何を学ぶのかを明確に伝えるオリエンテーションが重要である。

オリエンテーションは、下記の流れである。

- ・幼稚園教育実習事後指導のねらい
- ・担当教員からの教育実習の総評
- ・教育実習自己評価記入
- ・教職カルテ（「幼稚園教育実習」）記入

担当教員からの教育実習の総評では、教育実習訪問指導時や研究保育参観時に受けた学生の印象、幼稚園の指導担当教諭との面談内容を基に、学生の頑張りを認め、教育実習を無事に終了したことへの労いを伝える。さらに、自己の課題を明確にするよう助言し、残りの学生生活を有意義に過ごそうよう激励する。

学生は実習指導担当教諭の指導を受け、実習を通して多くのことを学んでいる。しかし、充実感と達成感を得た学生ばかりとは限らない。3週間の教育実習で思うような保育が出来なかったり、実習指導担当教諭からの指導に対応できずに悩んだり、負の感情を多く経験した学生も見られる。これらの学生が自己の学びを振り返り、ポジティブな感情に変化させながら学習に臨むことができるよう指導していくことが求められる。

また、実習終了直後の初回授業において、客観的に自己の教育実習を評価させる。PDCAを効果的に循環させていくためには、適切な自己評価が不可欠である。「頑張った」という自己の基準のみで判断するのではなく、また必要以上に謙遜するのでもなく、適切な評価ができるよう実際の「教育実習自己評価シート（資料1）」に記載されている「教育実習生評価の観点（表5）」の

「1. 態度（1.1意欲・積極性、1.2責任感、1.3明朗性、1.4協調性、1.5勤務態度）、2. 指導能力（2.1理解力、2.2幼児との関わり、2.3教材研究、2.4創意工夫、2.5実践力）、3. 実習記録」の全ての項目の評価をレーダーチャートに記入させる。レーダーチャート上の評価の形を見ることにより、自己の課題が明確となり、事後指導への意識が強まることが期待される。

つまり、教育実習における学びを全体・総体として捉えるだけでなく、「態度、指導能力、実習記録」の評価観点から捉え評価することにより、自己評価を明確にし、実習後の保育者への学びの課題を明確にすることである。

表5. 教育実習生評価の観点

#### 1. 態度

##### 1.1 意欲・積極性

主体的に実習に臨み様々なことを学ぼうとしている。何事にも前向きな姿勢で取り組んでいる。

##### 1.2 責任感

規律や約束事を守り、何事にも責任をもって遂行しようとしている。

##### 1.3 明朗性

誰に対しても、明るく生き生きとした言動で接しようとしている。

##### 1.4 協調性

子ども・職員・保護者と適切なコミュニケーションをはかり、周囲の人と和やかな関係を保とうとしている。

##### 1.5 勤務態度

言葉づかいや、礼儀、身だしなみに留意し、節度や良識のある行動を実践している。

#### 2. 指導能力

##### 2.1 理解力

園の教育目標を理解し、その実現に向けた保育の必要性を理解している。

##### 2.2 幼児との関わり

子どもの活動に積極的に加わり、幼児を理解しようとしている。子どもとのかかわりから個々の特性を理解し、保育に生かそうとしている。

##### 2.3 教材研究

自己課題の設定や指導計画等について研究し、努力している。

2.4 創意工夫

環境構成やいろいろな場面で、自分なりの創意工夫を凝らし、実践している。

2.5 実践力

ねらいや内容に向かって、適当な環境を準備し、援助している

3. 実習記録

実習内容を整理し、課題を明確にしながら記録している。要点を捉え、誤字や脱字がないよう丁寧に記録している。

(2) 教育実習報告会

「幼稚園教育実習事後指導」において、自らの「幼稚園教育実習」の実習活動を振り返る（リフレクション）「幼稚園教育実習報告会」を90分×2回開催する。

この報告会開催にあたり、「1.実習課題、2.わかる [a.説明、b.観察・見学]、3.できる [c.活動・経験、d.準備・調査・研究]、4.振り返り (図5、表6)」(三橋ら 2018) の視点で整理・記述し、報告書 (『幼稚園教育実習 学び・振り返り』) を作成する。なお、学生には実習における具体的活動を振り返り記述する作成要領 (資料2) を配布する。

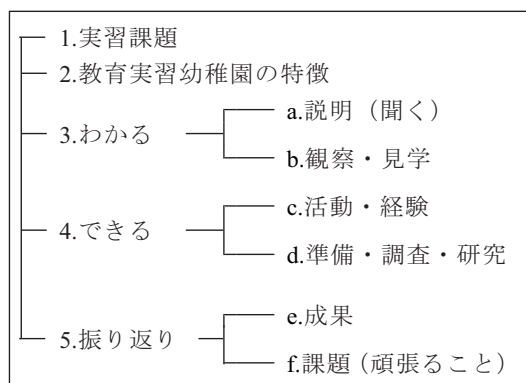


図5 幼稚園教育実習における学びの活動

表6. 幼稚園教育実習における学びの活動視点

- a. 説明  
実習担当者から実習園、実習担当クラス・幼児等について説明を受けた。
- b. 観察・見学  
実習担当者の実践や幼児の活動・行動等を観察・見学した。(観察は自然観察法)
- c. 活動・経験  
実習生が主体者となり幼児に活動を促す働きかけを行った活動・経験をした。
- d. 準備・調査・研究  
実習生が主体者となり幼児に活動を促す働きかけ・活動・経験のための事前の準備等の活動を行った。
- e. 成果  
実習を通して、幼稚園教育理解とそれを担う保育者の考え・わざ等の理解・活動・経験等をしたこと。
- f. 課題  
これから卒業・就職までに学ぼうと考え頑張ること。

教育実習は、学生 (学習主体) が教育実習園 (正統的实践共同体) へ赴き、その園の教育活動に周道的に参加し、その参加の形態を徐々に変化させ、より深く実践共同体の活動に十全的関与に向かう過程 (「正統的周辺参加による学習」) から、参与観察法 (participant observation) (自然的観察法) による観察である。この参与観察における立ち位置は、「①完全なる観察者、②参加者としての観察者、③観察者としての参加者、④完全なる参加者」(佐藤 1992) の4つがある。教育実習では、「②参加者としての観察者にはじまり、③観察者としての参加者」、そして子どもと活動をともにして行う参与観察であり、周りから「観察者」として見なされない「④完全なる参加者 (complete participation)」へ移行していく。これは、教育実習幼稚園へ参加し続け、状況の中に自らを置き徐々に全体を理解・把握し、個人が自らを取り巻く環境や他者との関係の中で「自分にもできることがある (手伝い・共同・代行・自ら行動)」として必要な知識・技能・実践力等、学習すること・学習していくこと・できる (働きかけしていく) ことが見えてくる。

そこで、教育実習における学びを「わかる・できる」の2軸で捉え（図5、図6）、教育実習報告会の資料『幼稚園教育実習 学び・振り返り』を作成する。

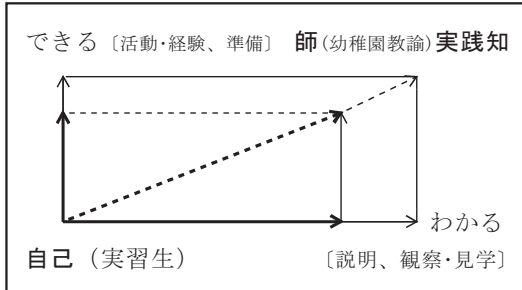


図6. 教育実習における学び【わかる・できる】

『幼稚園教育実習 学び・振り返り』は、「暗黙知（特定の状況に関する個人的な知識であり、形式化したり他人に伝えたりするのが難しい）」を形式知へ記述する（表出化 Externalization）」の学びと考えられる。教育実習における共同化・対話による幼稚園・指導教諭のもつ、言葉になっていないわざ・知識を、他者へ伝達可能な言語化は、形式知として自らへのわざ・知識として伝達・蓄積させることが可能となる。このように、表出化された知識（形式知）は、暗黙知よりもコミュニケーション効率に優れている。

**(3) 教育実習の成果と課題、教育実習の自己評価**

① 教育実習の成果と振り返りとそのねらい

教育実習を振り返り、実習報告会発表の際に作成した資料をもとに、詳細な各園の教育の特色、実習時の活動、研究保育の実践の様子や成果と課題などについて、小グループ（5～6人）で協議を行い、さらに学びを深めていく

② 「教育実習の成果と振り返り」の方法

検討で得た情報や改めて見つかった課題、よりよい保育のための改善点などを記録し、今後、現場に出たときのために役立てていくものとする。

③ グループワーク

グループ内で個々の成果と課題を出し合うことで、どうすれば更に充実した実習、研究保育ができたかを検証し、意見交換を行う。実習を通じて、あるいは教育実習報告会、振り返りのためのグループワークを通して学んだこと、考察した点について

、今後の課題とその解決の方法など所定の用紙に記述する（表7）。その間、4名の担当教員が巡回する中で、学生が必要に応じて質問したり、アドバイスを求めることができるよう配慮する。

表7. グループ協議の内容・視点

- 1) 気になる他園の方針や活動
- 2) 参考にすべき他の人の実践
- 3) 自分の実習を振り返って（課題や改善すべき点、その解決法）
- 4) その他

④ 担当教員からの講評

担当教員は、各グループを巡回し、成果、課題の内容はもとより、討議の仕方、考察の内容について評価し、講評を行うこととする。講評のポイントとしては、自己課題を明確にしていたか、実習園の特色、方向性を把握していたか、他者の発表から得られたことを確認できていたか等である。

**(4) 研究保育を振り返って指導案の再作成**

3週間の教育実習において、実習生は観察から実践へと保育活動への参加形態を変化させていく。中でも、自らが保育指導案を作成し主体的に保育を行う研究保育は、実習生にとって大きな意義を持ち、それまでの学びの集大成として位置付けられる。指導案の作成には、園の教育目標、発達の理解、幼児一人ひとりの理解、担当教諭の保育観・保育方法の理解など、十分な観察・実践と幼児とのかかわりが必要である。実習生は保育のねらい、保育内容、環境構成、予想される幼児の姿、援助方法など、幼稚園の実習指導担当教諭の指導を仰ぎながら、繰り返し教材研究を行い、指導案を完成させていく。しかし、これまで本学の教育実習事前・事後指導（平成29年度までは「教育実習事前・事後指導」1単位であった）において、多くの時間と情熱を注いで作成した指導案が振り返りに積極的に活用されているとはいえない状況であった。実習園での検討会で、実習生が研究保育の反省・課題を述べ、指導担当教諭から指導・助言を仰ぐ省察（リフレクション reflection）は行われているが、本学の事後指導においては、単に反省・課題を口頭と文書で報告するのみであつ

た。そこで本授業において、自己の研究保育を改めて振り返り、反省や指導担当教員からの指導・助言内容を盛り込んだ指導案の再作成を試みる。

指導案を再作成するという事は、教材研究を再度行う「教材再研究（益地 2011）」ことであり、事前の活動として捉えられがちな教材研究とはねらいが異なる。教材とは教育学上は広い意味に用いられ、教授の材料となる自然物、文化財そのものを意味している。特に保育では、幼児の経験活動そのものを教材と捉えるため（岸井 2002）、教材研究とは、保育の内容全てを研究することである。益地（2011）は、教材研究に子どもの学びという視点を取り入れることによって子どもと向き合い、その学びの実態に触発されることで、教材解釈や指導のありようを循環的で発展的なものにするのが教材再研究のねらいであると述べている。予想した子どもの姿と実際の子どもの様子の差異や自身の援助方法の課題など、検討会で学んだ保育の改善点等を取り入れることにより、P DCAサイクルに乗った循環的で発展的な教材研究にすることが本授業の目的である。

学生は、幼稚園教育実習研究保育リフレクションの視点（表8）を基に、既に記述した報告書や、実習園での検討会のメモを参考にしながら、指導案を再度作成する。

#### (5) 研究保育の改善点の検討（グループワーク）

幼稚園教育実習研究保育リフレクションの視点（表8）を基に再作成した指導案を持ち寄り、研究保育の改善点を検討するグループワークを実施する。

他者の研究保育の様子を聞くことにより、学生は様々な保育内容、援助方法、教材の工夫などを学ぶことが期待できる。さらに自己の保育の分析・考察の他に、グループワークにより他者の視点による分析が加わることで互いの保育観を拡張させることが期待できる。

学生は自己の研究保育の反省点や指導担当教員からの助言等を説明し、再作成した指導案にどのように反映させたかを解説する。その後、他者の保育の改善点に対するそれぞれのアイディアを出し合い、自己の実践や実習園での実践を紹介し合うなど、意見交換する時間をもつ。教員は机間巡視をしながら、学生が発表している研究保育の反省や振り返り、改善点を一緒に聞き、活動の際

（導入・説明・活動時・活動後）の実際に学生が子どもたちに行った言葉かけ、その言葉かけによる子どもの変化、研究保育を終えて、実習担当教員からどのようなアドバイスももらったかなど具体的に学生に問いかけるよう心がける。具体的には、表9のような点に留意して指導する。

表8. 教育実習研究保育リフレクションの視点

(1) 保育活動中の振り返り
・ 保育のねらい・内容
・ 保育活動・幼児
・ 環境構成・教材
・ 働きかけ・援助方法
(2) 保育活動後の振り返り
・ 保育のねらい・内容
・ 保育活動・幼児
・ 環境構成・教材
・ 働きかけ・援助方法
・ 指導教員との対話・園における検討
・ 日誌記述

表9. 教育実習研究保育の改善点指摘の留意点

・ 同グループ内の学生にもその時の状況等が詳しく伝わるよう、意識しながら話を広げる
・ 発表した学生の学びがグループ内の学生にも共有できるよう、心がけて話を進める
・ 反省ばかりの学生に対しては、自分でうまくいった点も聞きながら、自信を無くさないように配慮しながら話を進める
・ 指導担当教員の助言に納得いかなかった学生に対して、自身の経験を活かした助言を伝え、反省だけで終わらず、改善点を見つけて前向きな気持ちになれるよう意識しながら話をする

#### (6) 教育実習評価の理解 個別指導

##### ①教育実習評価の捉え方

幼稚園教育実習の実習園（指導教諭）による「幼稚園教育実習 評価表」を開示し、自らの実習活動を省察リフレクションと突き合わせる学びである。



#### 1) 教育実習評価の目的

教育実習評価項目は「指導能力、態度」であり、人格の評価を目的としていない。指導能力6項目（理解力、幼児とのかかわり、教材研究、創意工夫、実践力、実習記録）と態度5項目（意欲・積極性、責任感、明朗性、協調性、勤務態度）を現時点で実践的活動の中から評価していくものであると捉える。（資料3）

#### 2) 評価の捉え方と今後の課題

評価が高いからといってこれで安易に自分の力量が保育者としての域に達したと考えるべきではない。あくまでも、実習生として、学びの過程にある者としての評価と考えるべきである。

また、低い評価を受けた者についても、自分の不足している点の指摘であったり、実習園からの叱咤激励と捉えるべきである。

#### ②教育実習評価の確認

実際に実習園から提示された個々の評価票を確認し、幼稚園教育実習での成果と課題を明確にしていくこととする。

#### ③ 教育実習評価の記入

教育実習評価については、事前（第1回オリエンテーション）に自己評価している（資料1）。実習園から提示された評価（資料3）と自己評価を比較しながら感想を記入していくことで、より客観的に実習の成果と課題を明確にできると考える。

#### ④ 個別指導

自己評価と実習園からの評価に大きな乖離のある者、評価の意味を把握しかねている者、評価から成果や課題を見いだすことの出来ない者などについて、個別に担当教員に相談することのできる機会を設け、対応していく。

#### ⑤「教育実習の成果と振り返り」の記録

グループワークの成果として、「自分の実習を振り返って」「参考にすべき他の人の実践」に分けて記述したものを集計し、フィードバックする。改めて自分たちのグループの討議内容を確認すると共に、自分達以外のグループ討議の概要を知ること、この学びがさらに幅や奥行きを持つことになる。

#### (7) まとめ 自己課題の明確化

①「教職履修カルテ（「幼稚園教育実習事後指導」）記入

#### ② 教育実習担当教員から一言

「保育者へのはなむけ（卒業までに頑張ること、気をつけることなど）」

#### ③成長し続ける教師としての学び

「幼稚園教育実習事後指導」授業を学び

(1) 卒業までに学ぶこと

(2) 卒業後、保育者となって学ぶこと・学び続けること

（「せんせいあのね！」用紙裏面記入）

#### ④まとめ

今後、授業科目「幼稚園教育実習事後指導」について、評価研究実施対象・研究成果公表について「研究同意書（研究倫理委員会）」の記入依頼を行う。

#### 4. まとめ

幼稚園教育実習の学びを省察に焦点をあて「経験の言語化・記録、解釈・意味づけ、教材再研究、保育者としての課題の明確化等」を明らかにする幼稚園教育実習事後指導に下記7段階のプログラムの内容を検討してきた。

#### (1) オリエンテーション

教育実習自己評価記入・授業の進め方、教職履修カルテ「幼稚園教育実習」記入等

#### (2) 教育実習報告会

幼稚園教育実習の学びを「わかる [a.説明、b.観察・見学]、できる [c.活動・経験、d.準備・調査・研究]」の2軸で捉え・記述（言語化）し振り返り・他者への伝達と共有化・検討による解釈・意味づけを図る。

#### (3) 教育実習の成果と課題、教育実習自己評価

実習自己評価（成果と課題や改善点と解決法の明確化）と気になる他園の方針や活動の情報共有。

(4) 研究保育を振り返って指導案の再作成・(5) 研究保育の改善点の検討

研究保育を reflection-on action・省察し、子どもの理解の視点から教材解釈・指導の循環的・発展的検討（教材再研究）から指導案再作成を行い、さらにグループで再検討を行う。

#### (6) 教育実習評価の理解

実習自己評価と実習園・指導教諭の評価を突き合わせ、保育実践者としての学びを成果と課題を振り返る。

#### (7) まとめ 自己課題の明確化

6ヶ月後保育者として巣立つまでの学びと、保

育者として学び続ける課題を明らかにする。

今後、この「幼稚園教育実習事後指導」プログラム実施し、学生の学びを明らかにするとともに評価し、改善・充実を図っていきたい。

### 付記

(1) 本稿は、平成29年度まで「幼稚園教育実習事前指導（2単位）」として開設されていた授業科目を、教育課程改善・充実のために平成30年度から「幼稚園教育実習事前指導（1単位）」「幼稚園教育実習事後指導（1単位）」として開設する「幼稚園教育実習事後指導（1単位）」の授業プログラムについて検討したものである。

(2) 幼稚園教育実習指導担当「幼稚園教諭」は「教諭」、短大「教育実習事後指導担当教員」は「教員」の呼称にて区別している。

(3) 本稿は、「三橋功一、木村美佐子、三島裕一、三上香澄（2020）幼稚園教育実習の学びの省察に焦点をあてた短期大学幼稚園教育実習事後指導のプログラムの検討、日本教育工学会2020年春季全国大会（信州大学・長野）」を検討し加筆修正したものである。

(4) 本研究の関連研究成果として下記を公表している。

三橋功一、三島裕一（2019）短期大学幼稚園教育実習における「説明、観察・見学」による学び、函館短期大学紀要、46：85-98

三島裕一、三橋功一（2019）短期大学幼稚園教育実習における「活動・経験、準備・調査・研究」による学び、学校教育学会誌、23：77-86

三橋功一、三島裕一（2019）短期大学幼稚園教育実習における学びの活動、日本教育工学会2019年秋季全国大会（名古屋）ポスター発表

### 参考文献

ドナルド・ショーン／佐藤学・秋田喜代美 訳（2001）専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える—、ゆみる出版

ドナルド・ショーン／柳沢昌一・三輪健二 訳（2007）省察的実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考—、鳳書房

姫野完治、渡部淑子（2006）省察を基盤とした教育実習事後指導プログラムの開発、教育実践研究紀要、28：165-176

神原裕子（2018）新人看護師のリフレクションを支援する指導に関する研究、風間書房

岸井勇雄、小林龍雄、高城義太郎、栃尾勲（2002）指導法の研究、85、チャイルド本社

三橋功一、穴田朱里、伊藤しずく、伊藤桃佳、小杉朋花、齋藤あゆみ、鈴木杏奈、松谷芽依、矢島愛理（2018）短期大学1年次「保育実習Ⅰ（保育所）」の実習活動、日本教育メディア学会研究会論集、45、1-10

マイケル・ポラニー／佐藤敬三 訳（1980）暗黙知の次元：言語から非言語へ、紀伊國屋書店  
益地憲一（2011）子ども読み・子どもの学びから始める教材研究方法の開発—教材再研究とは、国語実践理論研究会（著）、新提案 教材再研究—循環し発展する教材研究—、東洋館出版、pp. 12-13

西之園晴夫（1999）教育実践の研究方法としての教育工学、日本教育工学雑誌 23(2)：67-77

野中郁次郎、竹中弘高／梅本勝博訳（1996）知識創造企業、東洋経済新報社

ルネ・ジラール／小池健男訳（2015）世の初めから隠されていること、法政大学出版局

佐藤郁哉（1992）フィールドワーク—書を持って街へ出よう—、新曜社

津守真（1983）保育の一日（9）、幼児の教育、82-1：48-55

上山留津子、杉村伸一郎（2015）保育者による実践力の認知と保育経験及び省察との関連、教育心理学研究、63：401-411

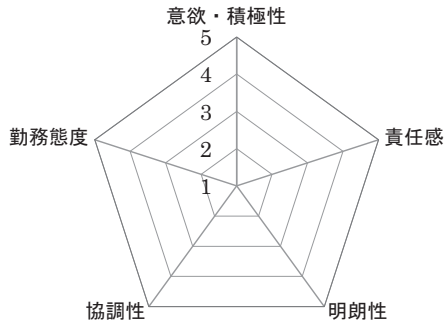
矢野智司（2014）幼児理解の現象学—メディアが開く子どもの生命世界—、幼児教育知の探究13、萌文書林

## 令和 元年度 教育実習自己評価シート

実習園名 \_\_\_\_\_ 学生番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

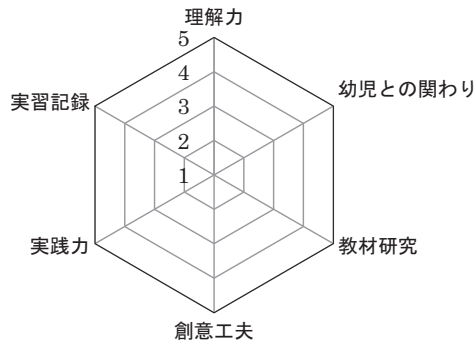
1. 教育実習を振り返り、自己評価を赤で書き込みましょう。更に、幼稚園の評価を青で書き込みましょう。

### 実習態度



評点	
5	とても優れている
4	やや優れている
3	概ねできている
2	やや努力を要する
1	全く努力が見られない

### 指導能力



2. 自己評価した感想を書きましょう。

3. 自己評価と園評価を比較した感想を書きましょう。

## 資料2. 「幼稚園教育実習」における学びの活動

学生番号：氏名（実習幼稚園） 171088：函短 華子（函館短期大学附属幼稚園）

### 1. 幼稚園教育実習 課題

・  
・

### 2. 教育実習幼稚園の特徴・概要等 紹介

#### (1)教育方針・目標等

・① ②

#### (2)教育活動の特色・特徴等

・  
・

---

### 3. 幼稚園教育実習 における学びの活動

#### (1)説明

・…………… について説明を聞いた。……わかった。

#### (2)見学・観察

・3歳児は、ひらがなを読むことができることがわかった。  
・子どもどうしのトラブルが起きた時、  
・…………… について、観察した。……発見した。

#### (3)経験・活動

・絵本（『おおきなかぶ』『 』）の登場人物の台詞の言い方を工夫しながら読み聞かせを行った。  
・手遊び（「だいくのキツツキさん」「 ）」を、……の工夫しながら行った。  
・ピアノ弾き歌い「とんぼのめがね」

#### (4)準備・調査・研究

・手遊び（「だいくのキツツキさん」）を調べ、練習した。……練習の中で……の工夫した（を見つけた）。  
・絵本読み聞かせ（『おおきなかぶ』『 』）の読み聞かせの練習をした。……意味を調べた。  
・ピアノ弾き歌い「とんぼのめがね」のために、歌の意味を調べたり、ピアノ練習と歌が合うように

#### (5)その他

---

### 4. 幼稚園教育実習 振り返り

#### (1)成果（わかったこと、できるようになったこと）

#### (2)課題（これから がんばりたいこと）

#### 「幼稚園教育実習事前指導」第2回（10月17日）・第3回（10月24日） 実習報告会 資料

- ① A（前半）グループ発表（第2回10月17日（木））→資料提出締め切り：10月16日（水）13時  
B（後半）グループ発表（第3回10月24日（木））→資料提出締め切り：10月23日（水）13時

② パソコン(Ward)、2ページ程度にまとめる→USB（ファイル名 学生番号 氏名 2019）or プリント

③ 記述は、手遊び「だいくのキツツキさん」、絵本読み聞かせ『おおきなかぶ』……のように、どのような学び・活動をしたのか、そのときどのような工夫をしたのか、具体的に。

## 教育実習生評価票

令和元年度

函館短期大学保育学科

実習生氏名		保育学科 2年			実習園名		〒		
		(学籍番号： )			実習園所在地				
実習期間		令和元年 月 日 ( ) から	実習園園長名		Ⓜ				
		令和元年 月 日 ( ) まで							
実習日数		日	遅刻	回	Ⓜ				
欠席日数		日	早退	回					
評価項目		評 価 の 観 点			実習生として見た場合の評点				
					5	4	3	2	1
					とても優れている	やや優れている	概ねできている	やや努力を要する	全く努力が見られない
態 度	1 意欲積極性	主体的に実習に臨み様々なことを学ぼうとしている。何事にも前向きな姿勢で取り組んでいる。							
	2 責任感	規律や約束事を守り、何事にも責任をもって遂行しようとしている。							
	3 明朗性	誰に対しても、明るく生き生きとした言動で接しようとしている。							
	4 協調性	子ども・職員・保護者と適切なコミュニケーションをはかり、周囲の人と和やかな関係を保とうとしている。							
	5 勤務態度	言葉づかいや、礼儀、身だしなみに留意し、節度や良識のある行動を実践している。							
指 導 能 力	1 理解力	園の教育目標を理解し、その実現に向けた保育の必要性を理解している。							
	2 幼児のかかわり	子どもの活動に積極的に加わり、幼児を理解しようとしている。子どものかかわりから、個々の特性を理解し、保育に生かそうとしている。							
	3 教材研究	自己課題の設定や指導計画等について研究し、努力している。							
	4 創意工夫	環境構成やいろいろな場面で、自分なりの創意工夫を凝らし、実践している。							
	5 実践力	ねらいや内容に向かって、適当な環境を準備し、援助している。							
実習記録		実習内容を整理し、課題を明確にしながら記録している。要点を捉え、誤字や脱字がないよう丁寧に記録している。							
総 合 所 見		※総合所見の欄に必ずご記入ください。また、評点1あるいは2に該当する項目がある場合は、その項目に関わるとご記入もお願いいたします。							